

NPO法人きものを着る習慣をつくる協議会

# 「ゆかた支援」に長蛇の列

陸前高田市  
大船渡市

NPO法人きものを着る習慣をつくる協議会(中塚一雄理事長)はこのほど、東日本大震災および大津波の劇甚被災地・陸前高田市・大船渡市を中心に「ゆかた支援」を実施。全国の有志から集めたゆかたを、今なお避難所生活を強いられる人々に支援物資として支給した。ここでは、同協議会メンバーにより結成され、その支援活動の中心となって推進した「きもの支援センター」から届いた現地レポートをお送りする。

東日本大震災で街が壊滅状態になった陸前高田市。理事長が見に行つた4月中旬から2ヶ月。5月中旬に現地打ち合わせ。そして、6月18日・19日と陸前高田市・大船渡市にて「ゆかた支援」をさせていただきました。会場を設営する前には、ゆかたを欲しい方が200名以上廊下に並んでおられました。急ぎ準備を行い、13時30分開始を13時に切り上げ、来場制限を行い、順番に「ゆかた」「帯」「小物」などを選んでいただきました。列を見ると、人数が減っておりません。

相変わらず100人近い方が並んでおられるのです。まるで百貨店の特卖みたいな雰囲気。でも、ゆかたを選ぶ顔が本当に楽しそう。孫や嫁さんの分まで探しておられた老女の方は、「洋服より「きもの」が欲しかったの！ほんとにありがたいわあ」小さいお嬢さんを連れて来られた若い母親は、「今年買おうと思いましたが、どこにも売っていないし、金銭的余裕もないし、とてもうれしいです」奥さんを亡くされた男性は、「妻もなにもかも流された、妻が以前買ってくれた「ゆかた」がなつかしい」と言って男物のゆかたと帯を選んでくれました。被災者のうれしそうな顔を観て、胸が熱くなります。「きもの支援」に賛否の声がありました。この現場を観ればわかります。「きもの」は必要品であることが…。

2時間近くで4枚残し、終了！これからも大いに「きもの支援」を行いたいと思います。支援にご協力をいただきました全国の皆様、本当にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。NHKさん 中日新聞社さん 東海新聞社さんの取材もいただきました。マスコミの皆様、本当に広報活動にご協力ありがとうございます。

## ゆかた支援 大船渡市にてすべて配布にご協力に感謝！

6月18日の陸前高田市での「ゆかた支援」に引き続き、翌日大船渡市にも「ゆかた支援」を開催。会場になった「大船渡市リアスホール」も避難所になっており、多くの人達が避難されています。

朝、9時30分からの開催予定でしたが、8時過ぎから長蛇の列。設営終わる次第、すぐに支援配布開始。一人5分間5点まで選ぶことが出来ます。それでも長蛇の列は延々と続きました。

前日の陸前高田市での支援がNHKや地元紙に掲載された影響で、1.5倍の来場。前日、これでは足りないと思ひ、一ノ関にある「きもの支援センター」より急遽支援の「ゆかた」を補給。

11時にはもう何も無い状態・・・すべて配布させていただきました。19日は朝日新聞社さんが最後まで取材していただきました。子供の「ゆかた」を補給したお陰で、19日は幼児を連れられたお母さんたちに喜んでいただけました。全国からご支援いただきました「ゆかた」はそれぞれ被災された方の手元に全部行き渡りました。今年の夏・お盆は「ゆかた」で和んでいただきたいと思ひます。陸前高田市は街全体が壊滅状態でした。大船渡市は街の中心街が壊滅です。

それぞれの街の復興は相当時間が掛かるかと思ひます。初回の支援を終え、これまで心配した諸問題や賛否の声。実際現場に行き、被災された方々の声を聴かなければわかりません。「きもの」を後回しにしてはいけません。「きもの」を欲しがっている人たちの多かつたことがわかりました。今回、うれしかったのはHPやmixi・Twitter・Facebookでご支援をいただいた方が多かつたこと。

反対に悲しかったのは、きもの業界の支援が思ったより少なかったこと。「きもの」を愛する人は、「きもの」を通して社会に貢献したい思ひを感じました。8月16日 午後から陸前高田市「高寿苑」 夕刻から大船渡市にて「ゆかた de 盆踊り」を開催する予定です。

開始する前に「ゆかた支援」を行い、着付けのボランティアも行います。ゆかたを選び、うれしそうに帰った親子の顔が忘れられません。3ヶ月も避難所暮らしをされ、辛い思ひをしているだろう若い母親と幼いあの子の笑顔、ゆかたを渡しながら涙がこぼれそうになりました。



### きもの支援センター

〒021-0054 岩手県一関市山目字境57-5

和夢 石森 治 宛

☎・FAX (0191)251-5616  
メール osamu-ismor@hkg.odn.ne.jp